

## <ニセコ町補助金等整理見直しに関する意見>

平成14年4月 ニセコ町補助金等検討委員会

### 1 基本的な考え方

我が国の景気は依然として低迷を続け、国際的な評価も下がる中で、金融、経済などあらゆる分野で極めて厳しい状況下にあります。

また、これまでの社会を支えてきた様々な仕組みが大きく変化している中で、地方分権社会の到来、少子・高齢対策、環境問題、市町村合併問題、財政難など地方自治体を取り巻く環境は大変革の時代を迎えています。

こうした状況のなかで、本町の行財政を取り巻く環境も大きく変化し、今後の行政運営について、社会経済状況の推移を改めて認識し、地方自治の新時代にふさわしいまちづくりを進めていくことが必要であります。

本町では、自らの責任において社会経済情勢の変化に柔軟かつ弾力的に対応し、住民福祉の向上と個性的で活力ある地域づくりを進めるため、従来の各種補助金等の見直し検討を行い、公共性の確保と財政状況にも配慮した、より効率的・効果的な住民活動の支援を積極的に推進すべきと考えます。

### 2 見直し期間

平成14年度～平成16年度(西暦2004年を目標とする)

### 3 基本的事項

・補助金等について行政の責任分野、経費負担のあり方、行政効果等を精査の上、公共性の確保と行政コストも配慮しながら抜本的な見直しを図るべきである。

・補助金等について終期の設定や進行中の管理を行うとともに、事業実績や効果の評価を実施し、計画的かつ効率的な資金援助を行う必要がある。

・補助金等の新設は、既設制度等との整合性に配慮し、町民の理解と納得が得られる制度を目指すべきである。

・補助金等に係る事務について、極力簡素化を図るべきである。

・各種補助金等の内容及び事業実績等は、進捗状況についても公表するとともに、住民にも理解しやすいよう積極的に広報するべきである。

・厳しい財政状況の下、補助金等を受ける側の意識の高揚と改革が必要である。

### 4 重点事項

#### 各種補助金等の見直し

・各分野において、施策の重点化、効率化を図ることにより、その効果を高め、真に求められる住民ニーズに対しメリハリのある支援を行うべきである。

・既設補助金の使途調査を実施し、スクラップアンドビルドを基本とした補助金等の見直し検討、整理合理化を推進すること。

・自助・自立が認められる団体及び補助目的が達成されたと思われる事業等への補助は見直

すこと。

- ・社会的意義や行政上の補助効果等が小さい既設補助金等は見直すこと。
- ・行政と町民の役割分担で、町が補助する必要性が薄く、町行政の範囲内にあると認められないものは廃止すべきである。
- ・長期にわたり、管理運営的な補助を継続しているものは見直すこと。
- ・補助対象事業の内容等により補助率の引き下げ、削減等が図れるものは見直すべきである。
- ・類似目的の補助金で、同一団体に支出されるものは統合すべきである。
- ・町が構成員となる事務協議会に対する補助金等については、運営の実態に即した必要最小限度の範囲内にとどめるよう配慮すべきである。
- ・各種団体に対する補助負担交付金については、決算書の提出を徹底するなどその用途調査を実施し、行政の責任分野、経費負担のあり方、行政効果等を精査し、廃止、統合、削減を実施すること。
- ・新規の補助金等は補助要綱を作成し、補助期間の終期設定の導入を実施するとともに、一定期間経過後は、補助の必要性和効果等について見直し検討を行うこと。
- ・補助事業の事後調査を実施し、企画立案に反映させるとともに、評価結果を公表する仕組みを整備すること。
- ・国・道や各種団体等の補助制度を利用できるものは、これを積極的に利用すべきである。